

注記が語るもの

社会科学部 会計専門職専攻 増村 紀子

キーワード 評価益、会計情報、有用性**研究概要**

日本の会計基準では負債は時価評価しないけれども、2010年3月期から金融負債に関しては財務諸表の注記に詳細な開示が行われるようになった。

注記の情報の有用性は実証で示した。その有用性を理論から説明する検証に目下取り組んでいる。

目指しているのは注記の有用性を理論から示すということであり、理論から有用性の裏付けを得ることである。

目下、現会計基準の基礎となっている理論いくつかの検証を行うことから始めている。

金融負債の注記の評価益はその企業の信用リスクの低下を示し、企業の資産リスクの変動を透けてみせるということが説明できていくと考えている。

アピールポイント

財務諸表のうちの貸借対照表とその注記の財務諸表利用者にとっての有用性を確かめて、利用者には有用な情報を提供できるための分析考察である。

応用分野

M&A、事業再生、倒産回避、節税、裁定取引などの企業が市場で行っている事象を、この理論が説明する。